

〈研究主題〉

自ら学び，思いを実現しようとする児童の育成 ～学習者用端末の活用を通して～



あいさつ

調布市教育委員会 教育長 大和田 正治

調布市立第三小学校におかれましては、令和3・4年度の2年間にわたり、調布市教育委員会研究推進校として、秋國 光宏 校長先生を中心に、精力的に研究を進めてこられました。また、これまでの間、市立学校における情報教育の発展にも大きく貢献をされたことに心より感謝を申し上げます。

第三小学校ではテーマごとに分科会を設置し、ICT機器の活用について効果的な指導方法や内容の検討に様々な機会を捉えて取り組んでこられました。

この研究を生かし、先生方には児童が自ら学び、思いを実現させる活動に取り組む姿や目標の達成状況について検証するとともに、予測困難な社会に向かう児童が自らの思いを大切に、将来の自己実現を図るための指導を進めていただきたいと思います。

今後とも、調布市の子どもたちのために、教育委員会と学校、保護者、地域、関係機関が情報共有に努め、より一層連携・協力しながら、調布の教育を推進していただくことを期待しております。

はじめに

調布市立第三小学校 校長 秋國 光宏

本校では、令和3年度より調布市教育委員会研究推進校として、令和の日本型学校教育の推進を図るために、研究テーマ「自ら学び、自分の思いを実現する児童の育成～学習者用端末の活用をとおして～」の具現化に努めてまいりました。

1年目は、学習者用端末の積極的な活用をとおして、児童の学習意欲の向上や教員のICT機器のスキルアップを高めました。2年目は、各教科等の本質を捉え、児童の資質・能力の育成につながる授業改善を図るために、研究実践を積み重ねて参りました。

この研究の取組が、理想とする児童像の実現に近付けていくことが重要であるとともに、オンラインでの研究発表により視聴される方々にとって、今求められている「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の一助になればと思っております。



令和4年11月4日(金)

調布市立第三小学校



1 研究主題

自ら学び、思いを実現しようとする児童の育成

2 研究主題設定の理由

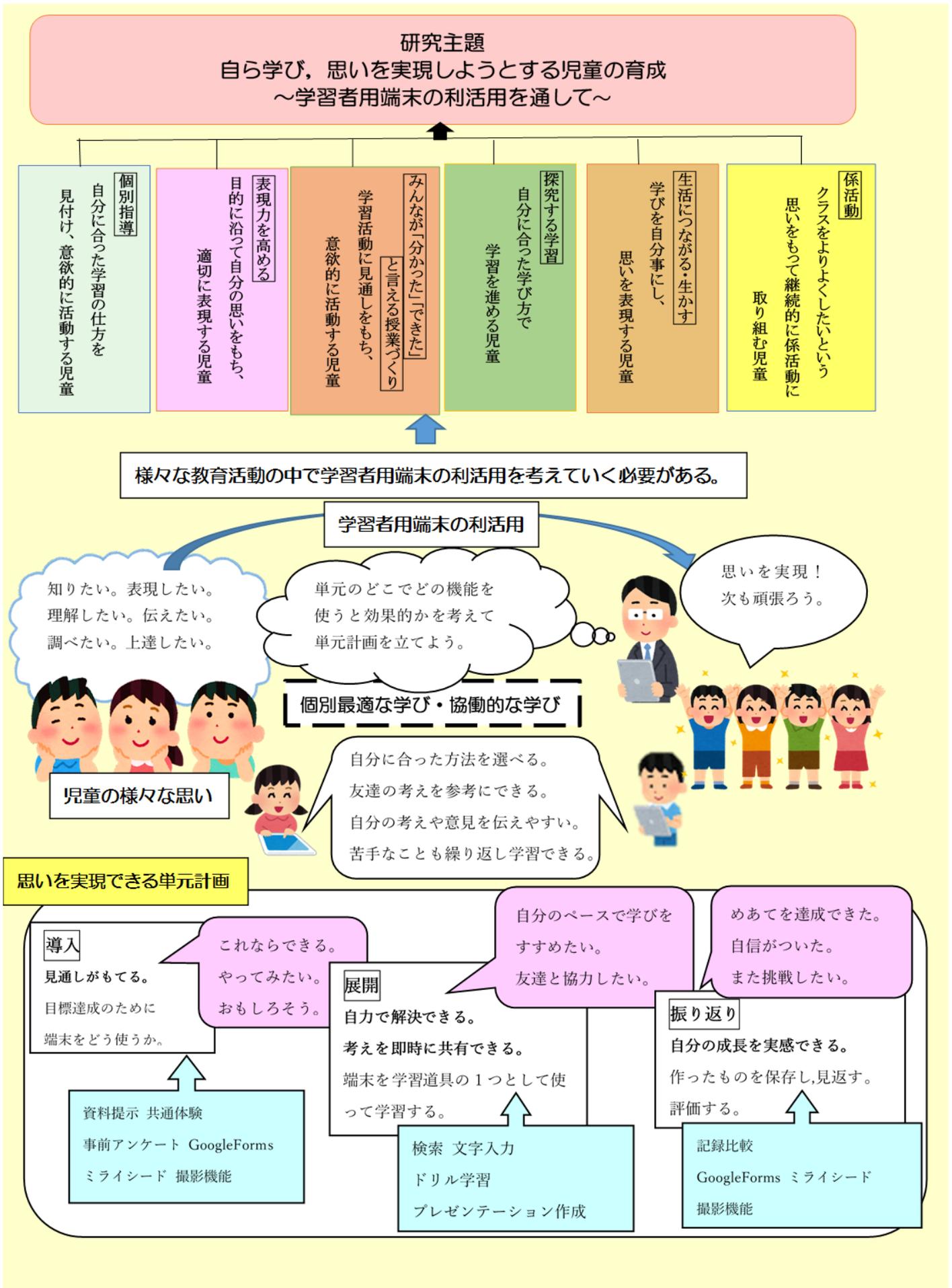
社会の在り方が急激に変わり、文部科学省のGIGAスクール構想も当初の計画よりも、急速にすすめられることとなった。2021年に一人1台学習者用端末が導入され、学校での授業形態も変化した。

そのような社会的背景の中、本校は昨年度から調布市教育委員会研究推進校となり、研究テーマを「主体的に行動する児童の育成」、副主題を「タブレット端末の利活用」とし、研究を進めてきた。本校の学校目標にある「自主的に学ぶ子ども」とは何かについて協議を重ね、研究テーマを決めた。昨年度1年間は全教科、全領域で児童の資質・能力を育成するために学習者用端末を利活用する実践を積み重ねてきた。3回の研究授業だけではなく、教師一人一人が日常の授業の中で挑戦した実践事例は50事例を超えた。これらの実践事例を学校全体で共有することで、教師が学習者用端末を授業の中で使うことが日常化した。失敗した事例から学び、改善を繰り返すことで様々な場面で学習者用端末を利活用することができたのである。昨年度の本校の学習者用端末の授業における利用率は総授業時数の8割を占め、市の平均利用率を大きく上回っている。

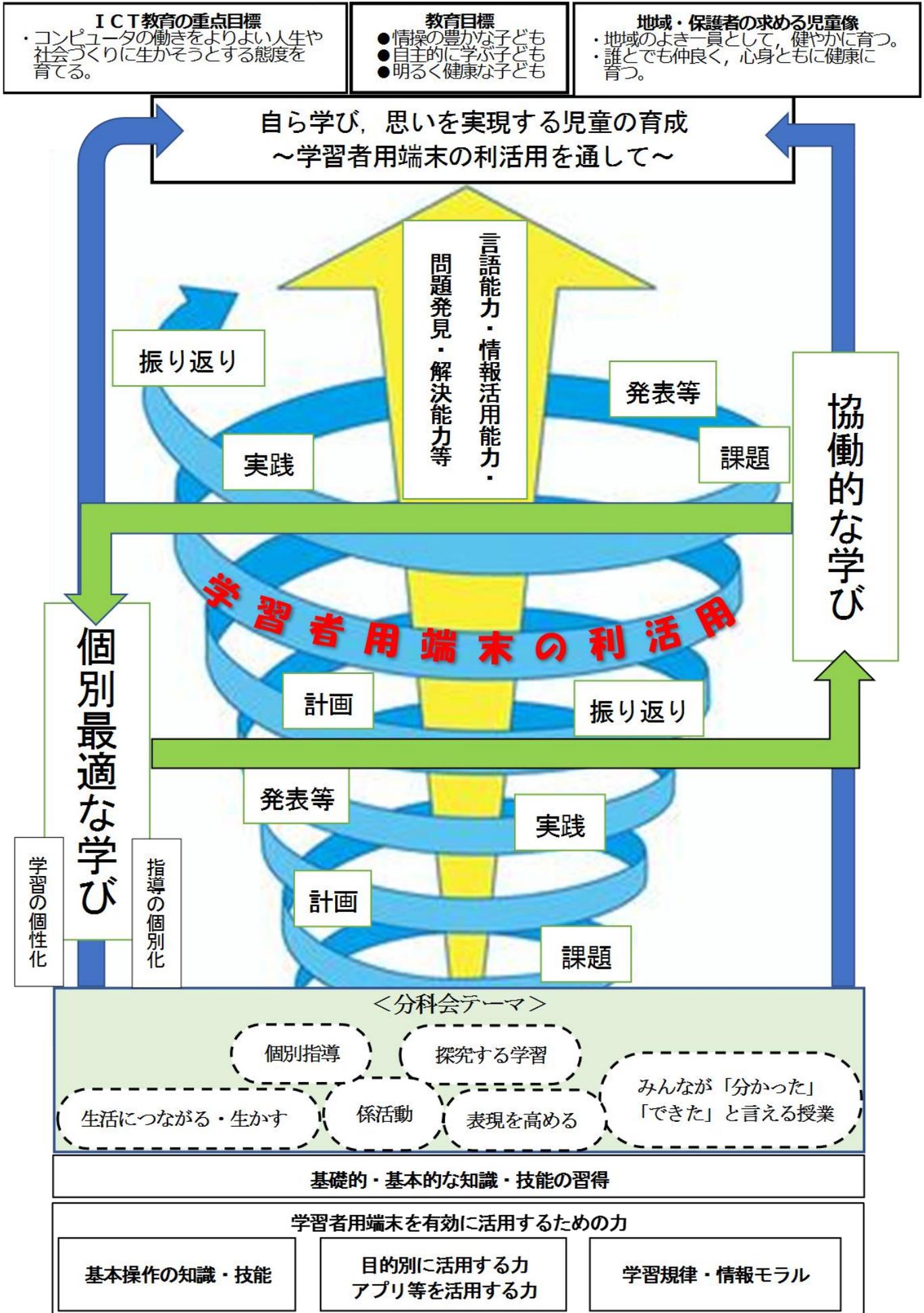
授業で学習者用端末を日常的に使うことによって、当然児童の学習者用端末を使うスキルも向上した。本校の児童は低学年から文字入力、写真の加工などができるようになってきている。さらに、学びの中で、学習者用端末をどの場面でもどのように使うとよいかを選択できるようになってきている。つまり、児童自身が、学習者用端末を効果的に利活用し、主体的に学びに向かう姿が見られるようになったのである。教師が一方的に使い方を決めて授業をするのではなく、児童が自ら学習形態を選択して学びをすすめる授業ができるようになってきている。一方、課題としては、学習者用端末を使うことが目的となってしまう、児童が単元の目標からずれてしまうような場面が挙げられる。

このような実態から、今年度は、教師側から与えられた課題を受動的に解決するのではなく、学習中の様々な場面で、自らの課題を解決できる指導計画を立て、その中で学習者用端末を効果的に取り入れる場面を設定することとした。昨年度の研究の中で、児童の「～したい。」という思いが多くみられる授業を目指すという方向性が見えてきた。児童は、学びを通して成長したいという思いをもっている。学ぶことで、成長した自分を実感すれば、更に、次の課題に挑戦しようとする意欲をもつことができる。学習者用端末を指導計画の様々な場面で効果的に取り入れることによって、教科等の目標と内容に迫り、児童が自ら課題を解決できると考えた。

学習者用端末は、自分のペースで学習をすすめられるとともに他者とのコミュニケーションをとるためにも有効なツールである。単元の目標は同じでも、そこにたどり着く過程は多様である。児童一人一人が自分にとって最適な方法を選択できるような授業を目指していきたい。さらに、児童一人一人の考えや思いを即時に児童相互、あるいは多様な他者と共有することも学習者用端末を使えば可能である。授業の中で、「個別最適な学び」と「協働的な学び」が両立できれば、児童は意欲的に、自ら学ぶことでできると考え、本研究主題を設定した。



研究構想図



5 研究の経過（令和3年度）

| 月 | 日 | 曜 | 研究会や活動 | 研究の実践と内容 |
|----|----|---|-----------------|--|
| 4 | 5 | 月 | 第1回 研究全体会 | 教育観の共有，今年度の研究の進め方 |
| 5 | 26 | 水 | 第2回 研究全体会【講演】 | 「先進校から学ぶ！」 |
| 6 | 23 | 水 | 第3回 研究全体会【講演】 | 「主体的に行動する児童の育成に向けた タブレット端末の利活用について」 |
| 9 | 8 | 水 | 第4回 研究全体会【実践報告】 | 専科分科会 |
| | 29 | 水 | 第5回 研究全体会【研究授業】 | 高学年分科会 6年 理科「月と太陽」 |
| 11 | 24 | 水 | 第6回 研究全体会【実践報告】 | 中学年分科会 |
| 12 | 8 | 水 | 第7回 研究全体会 | エージェンシーについて考える |
| 1 | 26 | 水 | 第8回 研究全体会【実践報告】 | 低学年分科会 |
| 2 | 2 | 水 | 第9回 研究全体会 | 今年度の振り返り |

（令和4年度）

| 月 | 日 | 曜 | 研究会や活動 | 研究の実践と内容 |
|----|----|---|-----------------|--|
| 4 | 7 | 木 | 第1回 研究全体会 | 今年度の研究について |
| | 19 | 火 | 第2回 研究全体会 | 今年度の研究の進め方について 分科会の取組について |
| 5 | 25 | 水 | 第3回 研究全体会 | 研究授業に向けて |
| 6 | 30 | 木 | 第4回 研究全体会【研究授業】 | 「みんなが『分かった』『できた』と言える授業づくり」分科会 2年 国語科「動物クイズを作ろう」 「表現力を高める」分科会 5年 図工科「彫り進み版画」 |
| 7 | 21 | 木 | 第5回 研究全体会 | 研究発表会に向けて，夏の課題の確認 |
| 8 | 30 | 火 | 第6回 研究全体会 | 研究発表会について |
| 9 | 30 | 金 | 第7回 研究全体会【研究授業】 | 「探究する学習」分科会 1年 生活科「ありがとう わたしのはな」 |
| | | | 【実践報告】 | 「生活につなげる・生かす」分科会 6年 総合的な学習の時間「三小をよりよくしよう」 |
| 10 | 6 | 木 | 第8回 研究全体会【研究授業】 | 「個別指導」分科会 3年 算数科「わり算や分数を考えよう」 |
| | | | 【実践報告】 | 「係活動」分科会 |
| | 26 | 水 | 第9回 研究全体会 | 研究発表会に向けて |
| 11 | 2 | 水 | 第10回 研究全体会 | 研究発表会リハーサル |
| | 4 | 金 | 研究発表会【実践報告】 | オンライン発表（Google Meet） |
| | | | 【講演】 | 「授業を変える，学びを変える！『自ら学ぶ力』の育成 を目指した学習者用端末の活用」 |

6 使用したアプリやコンテンツ

使用したアプリやコンテンツ



ミライシード

協働学習・一斉学習・個別学習それぞれの学習場面に合わせた学習者用端末学習用オールインワンソフト



オクリンク

発表資料・ノートの制作に役立つ。



ムーブノート

協働学習の授業を支援する。



デジタル教材

ミライシードのオクリンク内にある、様々な教科に対応する教材。



心情テープ図

ミライシードのオクリンクを活用したもの。2色の図形を作り、その色の大きさで登場人物の心情を表すことに使用。



Google

本校では教育機関向けの「Google for Education」ツールの中でも、主に以下のアプリケーションを使用した。



クラスルーム

学級ごとや教科ごとに児童を参加させ、グループを作ることができる。課題を提出させたり、連絡を合ったりすることに使う。



ドキュメント

共同編集しながら文章を作成することができる。



スプレッドシート

共同編集が可能な表計算ソフト。表を可視化し、同時に見ることができる。



スライド

共同編集しながら、プレゼン資料を作成することができる。



Forms

アンケートを作成し簡単に集計することができる。



Jam Board

共同編集が可能なデジタルホワイトボード。デジタル付箋などを使用することができる。



Google 検索機能

検索機能を使って調べ学習をすることができる。



Google Earth

3D画像で構成された地図アプリ。実際にその場にいるような体験学習ができる。



Apple

本校で使用している学習者用端末がApple社製品のため、以下のアプリケーションを使用した。



カメラ機能

写真及び動画の撮影ができる。



マップ

周辺地図や目的地までの道のりを調べることができる。



計測

カメラを通して寸法を計測したり本体のジャイロセンサーによって角度を計測したりすることができる。



Pages(ペイジーズ)

文書やポスターを簡単に作成することができる。



iMovie(アイムービー)

動画編集をすることができる。

その他



Phonto

画像の切り抜きや複合をすることができる。



メンチメーター

質問を提示し、その回答を集約して可視化することができるブラウザアプリ。



教科書会社のデジタルコンテンツ
図形の操作や数の変化を視覚的に学べる教科書補助教材。

7 分科会実践報告

個別指導分科会

自分に合った学習の仕方を見付け、意欲的に活動する児童

1 児童像設定の理由



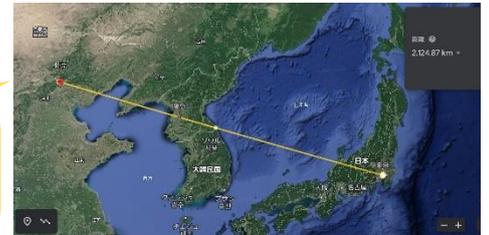
2 実践

第3学年 算数科 長い長さをはかって表そう



20mだと思えるところまで歩き、計測アプリで実際の距離を測る。

Google Earth を使って国内外の二点間の距離を測る。

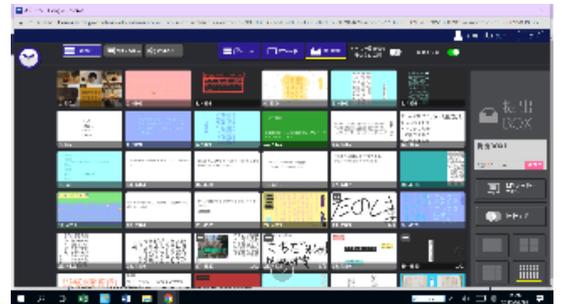


第4学年 国語科 ぴったりの言葉、見つけよう

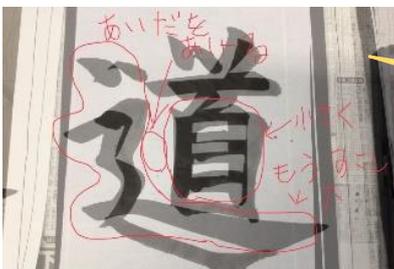


心が動いたことをムーブノートに記入し、交流する。

オクリンクの提出BOXを参考に友達の考えを知り、学びを深める。



第5学年 書写 文字の組み立て方(中と外)と穂先の動き【道】



自分の書いた字と手本を重ねて見比べることで、自分の課題を認識する。

清書する際にどこに気を付けて書くのか友達に紹介する。



3 成果と課題

成果

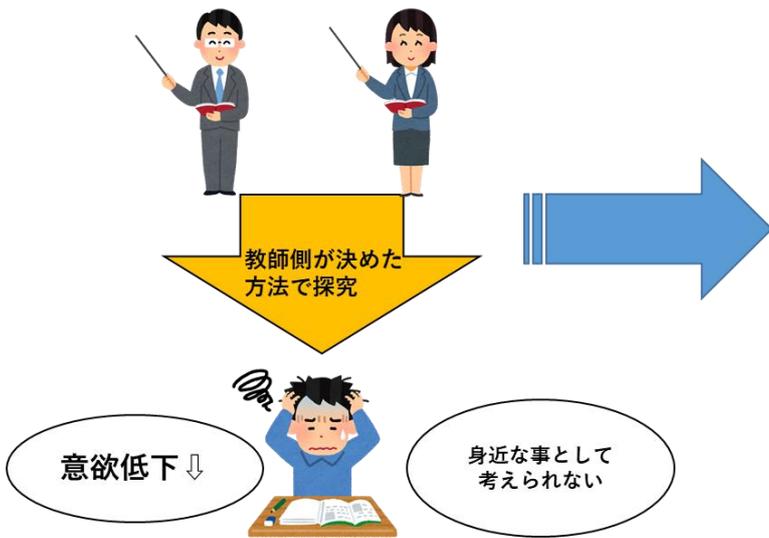
- 一人一人に合った支援を行うことで児童の学習への意欲が高まり、学びに向かう力を育むことができた。
- 自分の考えを広げたり深めたりすることができ、友達と学び合うことができた。

課題

- 単元計画を立てる際に、学習目標の達成に具体的操作活動や学習者用端末の活用が有効であるかを検討する必要がある。
- アプリによって事前に使い方を練習しておく必要がある。

自分に合った学び方で学習を進める児童

1 児童像設定の理由



2 実践

第1学年 生活科 「ありがとう わたしのはな」



自分がどのような世話をしてきたかを振り返り、もっと行いたいことをカードに表現することができた。

児童一人一人が作ったアサガオの成長のスライドショーをクラス全体で共有することができた。



第4学年 社会科 「水はどこから」



児童一人一人が知りたい水の使用量を調べることができ、自分のペースで学習活動に取り組み、学習への意欲が増した。

第5学年 総合的な学習の時間 「4年生に八ヶ岳移動教室を伝えよう」

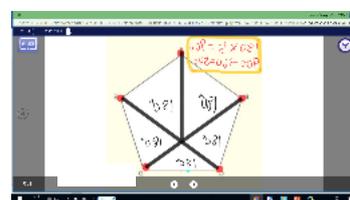
| | 【報告】交流 | 【報告】役割 | 【報告】生活1 | 【報告】生活2 | 【NOTS1】 | 【NOTS2】 |
|------|--------|--------|---------|---------|---------|---------|
| 発表時間 | 10分30秒 | 10分30秒 | 10分30秒 | 10分30秒 | 10分30秒 | 10分30秒 |
| 発表方法 | 発表 | 発表 | 発表 | 発表 | 発表 | 発表 |

常に情報を共有し合うことで、自分たちに合った方法を選択することができた。

普段発言することを気負ってしまう児童も、自分の意見を発信し、話し合いに参加することができた。

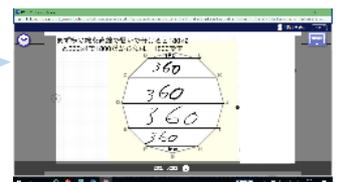


第5学年 算数科 「図形の角を調べよう」



目の前に、自由に線や点を書き込める四角形があることで、様々な三角形に分ける試みを主体的にできた。

黒板に投影し、色を付けたり、数や式を書き加えたりすることで、分かり易く論理的に説明する力を身に付けることができた。



3 成果と課題

成果

- ・自分に合った学び方を見付けることができた。
- ・学習に対して意欲的になる児童が増えた。
- ・生活に結び付けて考えることができた。

課題

- ・新しい技能を習得するためには時間がかかる。また、個人差が生じる。
- ・単元計画のどこで、どのような機能を使うか精査する必要がある。

目的に沿って，自分の思いをもち，適切に表現する児童

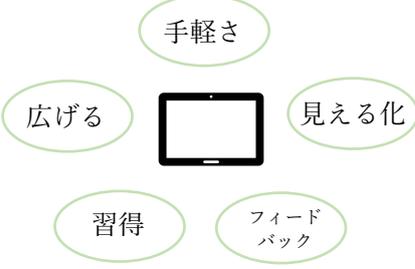
1 児童像設定の理由

児童の思い



表現力が大切

5つの活用



思いの実現



2 実践

第5学年 図画工作科「彫り進み版画」



児童同士で操作方法の教え合いをすることができた。



間違いを簡単に修正し，正確な絵を完成することができた。

第4学年 音楽科「リズム伴奏づくり」



学習の振り返りで，色別機能を利用すると，児童の理解度を，教師が瞬時に把握できた。



リズムの組み合わせをいろいろ考えるときに便利に使うことができた。

第5学年 家庭科「いろいろな縫い方」



みんなの作品を大きな画面で見ることができ，共感や喜びを共有することができた。

Google スライドに貼り付けた動画や画像を何度も見ることができ，安心して縫う活動に取り組むことができた。



第3学年 道徳「よごれた絵」



児童用端末の「クラスルーム」を用いて交流することで，児童が考えを表現しやすくなった。

スクリーンに挿絵を映しながら，教科書にある「二次元コードの内容・朗読」を用いて教材の読み聞かせを行うことで，教材の内容を児童が一回で理解できた。



3 成果と課題

成果

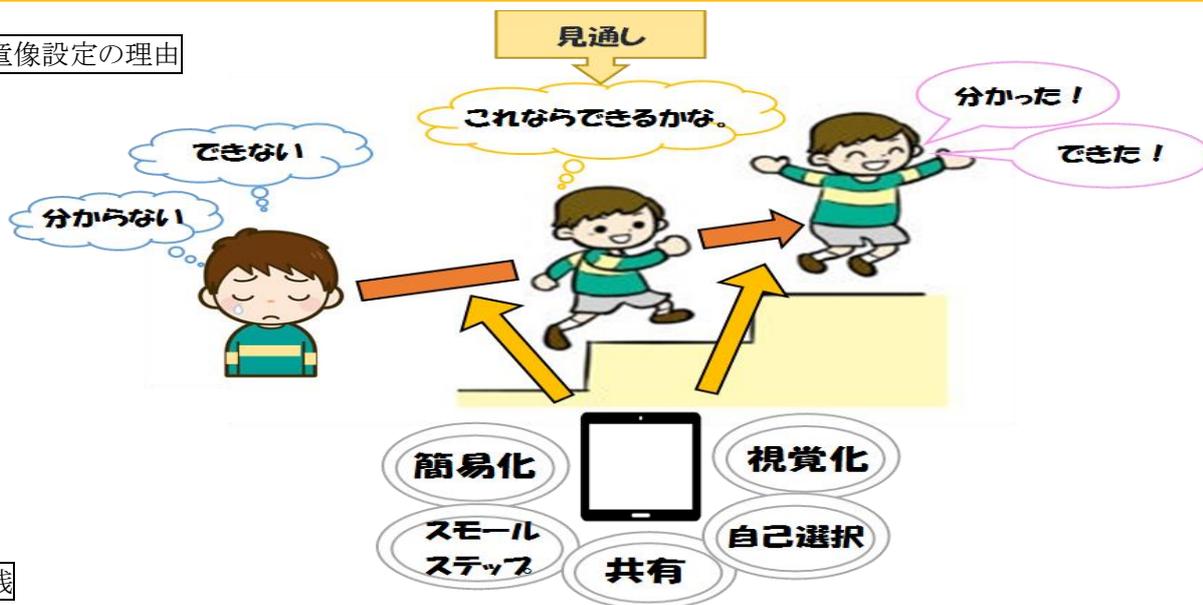
- ・「できる」という児童の安心や自信につながり，「やってみよう」という自ら学ぶ意欲につながった。
- ・お互いが多様な考えに触れる機会が保障されることで児童の考えの比較や他者の考えを取り込んで再構築をするといった，より深い学びにつながった。

課題

- ・児童の「思いを実現」させるためには，児童が自分に合った課題を選択できるように，教師がサポートをすることが必要である。
- ・より深い学びを目指すためには，教師が児童の考えを把握し，比較・分類・関連付けをしなければならず，その時間を確保するのが難しい。

学習活動に見通しをもち、意欲的に取り組む児童

1 児童像設定の理由



2 実践

第2学年 国語科「生き物クイズ」を作ろう

① もんだいの文
ゾウのはなの中はどう
なっているでしょう。

② ほね

③ 何も入っていない

作成したクイズを、友達と発表し合っている。

活動に適したワークシートを配布し、全員がクイズを作成することができた。

第2学年 道徳 「ぐみの木と小鳥」

一覧表示を活用し、友達の意見や考えを一目で見られることで、比較・検討が容易になった。

心情グラフを作成し、全員が自分の意見を視覚的に表現できるようにした。

第1学年 算数科 「たしざんとひきざん」

が4 あります。

が3 あります。

あわせて7 ですか。

ムーブノート「広場」にて友達の作成した様々な問題を解き、理解を深めた。

自分の活動に合うワークシートを選択し、穴埋め形式で書くことで、全員が問題を作成することができた。

第1学年 生活科 「あたらしい1ねんせいをむかえよう」

メダルに書くメッセージを共有し、友達の考えを取り入れることで、全員がよりよいメッセージを考えることができた。

アサガオの折り方の画像や動画を児童に送信することで、自分のペースで折り進めることができた。

3 成果と課題

成果

- ・学習への意欲付けができた。
- ・学習に見通しをもち、最後まで学習に取り組むことができた。
- ・学習のつまづきを減らし、意欲を継続することができた。

課題

- ・ただ学習者用端末を用いて学習に取り組むのではなく、活用する意図や必然性のある課題設定が大切である。
- ・学習者用端末の基本的な操作に必要な知識や技能の習得が大切である。

学びを自分事にし、思いを表現する児童

1 児童像設定の理由



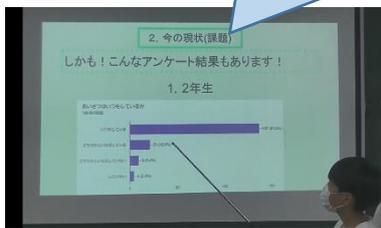
2 実践

第6学年 総合的な学習の時間
「よりよい三小にしていこうために」



実はマイネーム持っていない人が多い!?
(6年生のアンケート結果)
なんと約**20%**もの人持っていないと答えています!!!

作成したスライドを発表し、意見交流をすることで、考えを広げたり深めたりできた。



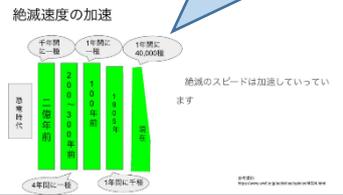
今の学校の課題について、インタビューやアンケート等を活用することで、根拠をもって調べることができた。

第6学年 理科「生物どうしの関わり」

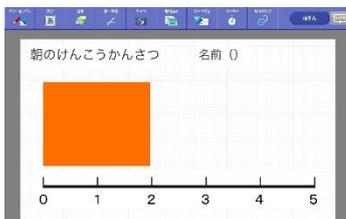


調べてまとめた資料を発表し、意見交流をすることで、「持続可能な社会」に対する課題意識をもつことができた。

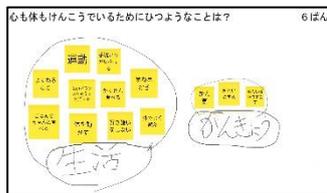
自分たちに合ったアプリケーションを活用することで、自分の考えや思いを表現しようとする意欲を高めることができた。



第3学年 体育(保健領域)「健康な生活」



班で意見を出し合い、その後分類したことで、自分の考えを積極的に発信したり、広げたりすることができた。



言葉に表すのが苦手な児童でも、テープ図を使って表すことで、視覚的に自分の思いを表現できるようにした。

第5・6学年 特別活動(児童会活動)
保健委員会による動画作成
「コロナ禍における熱中症対策について」



低学年児童でも分かりやすい演出や字幕を入れる工夫を行った。

各児童が自分の得意・不得意やこれまでの経験などを踏まえ、自分が向いている役割を決めた。



3 成果と課題

成果

- ・情報を収集、分析することで、自分たちの考えに根拠をもつことができた。
- ・ビデオやスライド等を使って、適切な方法で自分たちの思いを伝えることができた。
- ・学びを実生活の中に生かすことができた。

課題

- ・学習者用端末の活用自体が目的になってしまわないように注意していく必要がある。
- ・目的に合わせて多くの情報を整理・分析する力や適切にまとめる力を身に付ける指導をしていく必要がある。

係活動分科会

クラスをよりよくしたいという思いをもって、継続的に係活動に取り組む児童

1 児童像設定の理由

クラスをよりよくしたいけど・・・

係の仕事が続かない！

時間がない！

やり方がわからない！

⑤定期的な係の見直し

④評価の場の設定

③活動時間の確保 & 発信・発表の場の設定

①活動への思いを高める

②見通しをもたせる

思いの持続



活動の継続

2 実践例

手だて①活動への思いを高める



手だて②見通しをもたせる



Pages やドキュメントを使って係カードを作成した。文字、絵、写真などで思い思いの工夫ができた。

係カード（ホームページ）を学習者用端末で作ることで、協力して取り組むことができた。

Google 検索を用いて活動の参考になる情報を収集することで、活動の見通しを立てることができた。

手だて③活動時間の確保 & 発信・発表の場の設定



係用 Classroom での発信・発表を通して、友達同士の交流が深まり、活発な活動につなげることができた。

手だて④評価の場の設定



オクリンクの6時間目を開放した。いつでもどこでも活動することができ、自分のペースで取り組むことができた。

ムーブノートで係の振り返りを行ったことで、互いに励まし合い、よりよいクラスづくりに向かう気持ちを育てることができた。

係カードをデータ化することで、加除修正がしやすく、また一からカードを作ることも手軽にでき、継続した活動につながった。

手だて⑤定期的な係の見直し



3 成果と課題

成果

- ・効率的で無理のない活動ができ、継続的な活動につながった。
- ・児童の活動の幅が広がり、「やってみたい」という意欲が高まった。
- ・発信し合ったり、評価し合ったりすることで、児童同士の関わり合いが深まった。

課題

- ・より活動に適したアプリを活用できるよう、教師も児童も更なるスキルアップが必要である。
- ・ふさわしくない書き込みや画像、映像がないよう、SNS ルールや情報モラルについて随時確認・指導していくことが大切である。

～成果～

○単元計画の中で効果的に学習者用端末を使う場面を設定したことにより、児童が自ら課題を解決しようと意欲をもつことができた。児童は、学習者用端末を学びの道具の一つとして捉え、利活用することで課題解決に役立つと考えている。

調布市の調査より

(1) 教員用タブレットの活用率(接続回数/授業コマ数)

| | 本校(市との差) | 調布市 |
|-------|-------------|------|
| 令和4年度 | 88.4(+19.8) | 68.6 |
| 令和3年度 | 85.1(+17.2) | 67.9 |

令和4年度教員用タブレットの活用率が調布市の平均を **19.8ポイント**上回り、昨年度より **3.3ポイント**上昇した。昨年度に引き続き、活用されていることが分かる。9割近い活用率から教員自身が積極的に利活用に挑戦し、ICTを使った授業が日常化している。

「全国学力・学習状況調査(6年生対象)」による児童質問紙での肯定的な回答(%)の結果より

(2) 5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。

| | ほぼ毎日使っている | |
|-------|-------------|------|
| | 本校(都との差) | 東京都 |
| 令和4年度 | 60.2(+28.7) | 31.5 |
| 令和3年度 | 19.4(+5.6) | 13.8 |

令和4年度において「ほぼ毎日使っている」と肯定的に回答した児童は、昨年度と比べると **40.8ポイント**上回っている。

また、令和4年度の東京都と本校を比較すると **28.7ポイント**上回っている。昨年度の学習者用端末を使用した授業実践の成果が反映されている。

(3) 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。

| | 役に立つと思う | |
|-------|-------------|------|
| | 本校(都との差) | 東京都 |
| 令和4年度 | 75.0(+11.4) | 63.6 |
| 令和3年度 | 68.0(+5.4) | 62.6 |

令和4年度に「役に立つ」と肯定的に回答した児童は、昨年度と比較すると **7ポイント**上回っている。また、令和4年度の東京都と本校を比較すると **11.4ポイント**上回っている。児童は学習者用端末の有用性を感じ、すすんで利活用することが身に付いている。

(4) 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べた事を発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。

| | 当てはまる | |
|-------|------------|------|
| | 本校(都との差) | 東京都 |
| 令和4年度 | 43.2(+6.6) | 36.6 |
| 令和3年度 | 42.7(+7) | 35.7 |

令和4年度に「当てはまる」と肯定的に回答した児童は昨年度と比べ、 **0.5ポイント**上回っている。令和4年度の東京都と比較しても **6.6ポイント**上回っている。

自ら課題を見付け、解決する活動に取り組むことができている児童が増えている。

○これらの調査結果から、ほぼ毎日学習者用端末を授業で使用するにより、児童は学習者用端末を様々な方法で利活用し、その有用性を感じることができると考える。単元計画の導入・展開・まとめのそれぞれに適切な方法で学習者用端末を使用することで児童が学習に対して意欲をもち、自分なりの方法で問題に取り組み、友達との関わりを通しながらまとめ、発表するという問題解決能力の育成につながると思う。

～課題～

●児童の発達段階や各教科等の学習内容、情報モラルを考慮して系統性のある学習者用端末の活用を踏まえた年間指導計画の作成が必要である。

●端末を活用して児童一人一人の思考の見える化を図ることができるからこそ、集団の中で個が埋没してしまうことがないように教師が意識して価値付けたり、評価したりすることが必要である。

おわりに

副校長 黒木 美穂

「自ら学び、思いを実現しようとする児童の育成～学習者用端末の利活用を通して～」を研究主題に掲げ、この2年間研究を進めて参りました。その成果をこのリーフレットにまとめることができました。

リーフレットの中身は、『チーム三小』の教職員の弛まざる挑戦の証です。社会の在り方が急激に変化したことにより、学習者用端末が当初より前倒しで導入されました。教員一人一人が日々の授業を大切にしながら学習者用端末の利活用について考え、授業実践を続けてきました。研究をとおして、職員室で教師の学び合う姿が見られました。教師の本気の姿が見られました。教師が成長し、授業力を高めてきたことにより、子どもたちの力を大きく伸ばすことができました。研究をとおして見えてきた課題については、成果を生かしつつ課題解決への実践を積み上げていくことで、本研究を更に発展させていきたいと思えます。

最後になりましたが、本校の研究を進めるにあたりご指導・ご支援いただきました講師の先生方、調布市教育委員会に心より感謝申し上げます。

